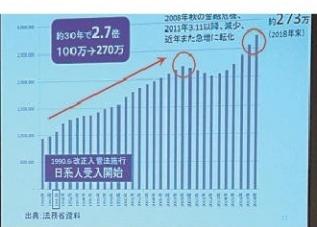


入管難民法改正を解説

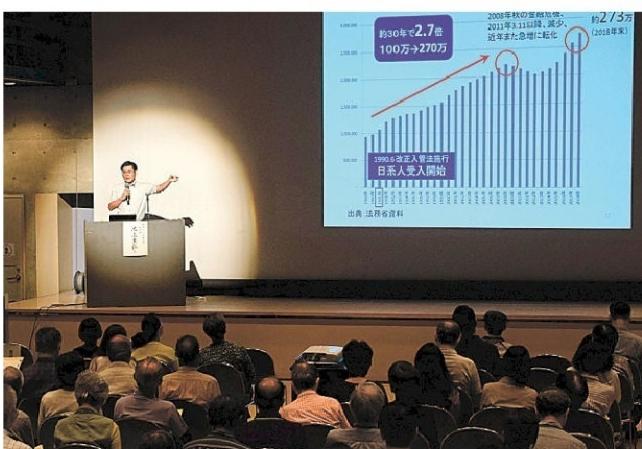
中区でセミナー「外国人との共生探る」

浜松国際交流協会は6日、セミナー「何が変わる!?『外国人労働者受け入れ拡大』大学」を開いた。浜松市中区のクリエート浜松で開いた。

4月の入管難民法改正を受け、市民の疑問に応えようと開催。約170人が参加した。



改正入管難民法などについて解説した池上副学長=浜松市中区のクリエート浜松



純労働の外国人を受け入れる大きな政策転換」と説明した。全国

でアジア系国籍者が増えていていることや、永住

・定住者が7割以上を

占めるという県内の特徴も紹介した。

鳴湖西岸団地で自治会役員を務める野中康司

さんは、共生に向けた

取り組みを紹介した。

しを目指して」と語った。

外国人が多く住む佐鳴湖西岸団地で自治会役員を務める野中康司さんは、共生に向けた取り組みを紹介した。

新たな在留資格「特定技能」で来日するのは若い単身者とみられ、「職場だけでなく地域での受け入れも重要」と指摘。県西部に住むインドネシア人が、近隣住民と会話できずに避けられていると感じたという例も挙げ、「企業の利点ばかり言われがちだが、外国人と地域も合わせた『三方良



静岡新聞